



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第 80 号

2010.9.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」の名前をつかっています。

も く じ

お知らせ

- 一八幡湿原自然再生シンポジウム開催
- 一観察会の日程決定

活動報告

- 一こども観察会～植物標本をつくろう
- 一カワシンジュガイの観察会
- 一千町原の草刈り 夏
- 一可愛川の水生生物観察会

観察会案内

- 一霧ヶ谷の観察会 秋のいきもの観察会
- 一霧ヶ谷湿原の植生調査 秋

お し ら せ

● 八幡湿原自然再生シンポジウムが開催されます

広島県による八幡自然再生事業が行われ、昨年度工事が終了し、霧ヶ谷湿原が完成しました。このシンポジウムでは再生事業の成果や方法や、霧ヶ谷湿原での取り組みの事例発表が行われます。地元である八幡小学校児童によるオペレッタや現地説明会も行われますので、どうぞご参加ください。

開催日時：9月25日（土） 10：00～17：20

場所：北広島町芸北文化ホール（広島県山県郡北広島町川小田75-54）他

- 内容：1 事例紹介 10：15～
2 基調講演 13：00～
3 パネルディスカッション 14：00～
4 現地説明会 16：00～

申込・問合せ：

八幡湿原自然再生シンポジウム開催事務局

TEL:082-297-6111 FAX:082-292-8161

E-mail:takamura@mail.towakagaku.co.jp

ホームページ：http://www.pref.hiroshima.lg.jp/eco/a/event/2209/event_2209_index.html

● 観察会の日程決定のお知らせ

未定となっていたキノコ観察会の日程が決定しましたので、お知らせします。

開催日時：2010年10月3日（日）9:30

集合場所：聖湖キャンプ場駐車場（国道191線からキャンプ場入り口より入り右側の最初の駐車場）

講師：川上嘉章 定員数：30名

準備：基本セット、キノコを入れるかご（ビニールの袋よりも、通気性の良いかごが良い）

参加費：一般=300円 / 賛助会員=100円 / 正会員・中学生以下=無料

観 察 会 報 告

●こども観察会～植物標本をつくろう～

開催日時:2010年7月25日(日)9:30

講師:佐久間智子

「夏休み企画」ということで、子ども限定の標本作り教室を開催しました。講師の佐久間先生は、普段から、お仕事でも自分の調査でも標本を作っている専門家です。今回は北広島町内外から6組9人の子どもさんと保護者の方たちが参加されました。

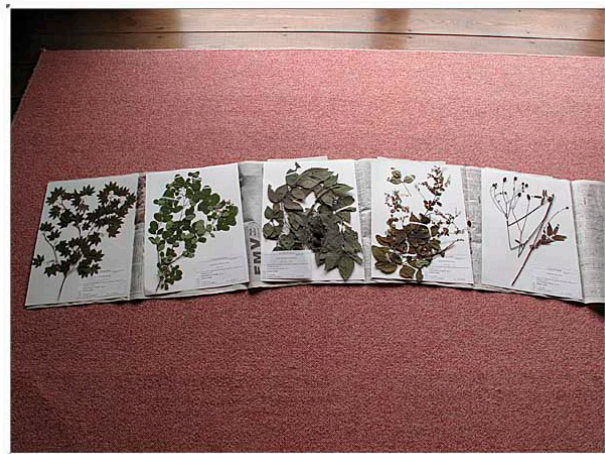
はじめに、山麓庵で植物標本についての説明を聞きました。標本を作る目的や、どのように活用されるのかなど、実際に携わっている佐久間先生の話は、とても興味深いものでした。特に「標本にすれば100年でも保存できる」ということに、子ども達もびっくりしていたようです。実物の植物標本も見せて頂き、花や種が付いている方が良く、葉の裏側も見えるように工夫することなどを説明していただきました。

一通りの説明を聞いたら、いよいよ植物体の採取です。草本は根から掘り取ることで、樹木は適当な大きさを枝を切り取ることで、実演を見せてもらった後は、親子で力を合わせて標本を集めました。一人20種が目標です。大きな草本は腕の長さで折れば新聞に収まること、よけいな木の枝を切り落とす時には、枝の付き方が分かるように少し残して切り落とすことなど、ちょっとした工夫も守りながら採取しました。

採取ができれば、もう一度山麓庵に戻って、いよいよ標本を挟んでいきます。ただ挟むのではなく、新聞紙の破り方、置くときの新聞紙の向き、葉の広げ方など、細かい点にも注意しながら進めていきます。保護者の方に手伝ってもらいながら、みんな頑張っていました。大きな草がとくにたいへんそうでした。標本が出来上がったら、挟んだ標本の管理や台紙への張り方について説明があり、最後に先生から全員にラベル用紙が配られました。このラベル用紙は、先生が実際に使っているもので、参加者からは「カッコイイ」という声も上がっていました。それぞれの家で、きっと良い標本が出来上がったことでしょう。(しらかわかつのぶ)



山麓庵で説明をする佐久間先生。



実物の標本を持ってきてくださった。並べると、植物標本はやっぱり美しい。



講義を受けたら、いよいよ植物採取。



長い標本は腕の長さで折る。



完成したら、ダンボールで挟んで縛ってできあがり。



標本が集まったら、もう一度山麓庵へ。

【みなさんの印象に残った物】

「身近にたくさんの植物がある事」「植物を持って標本を作ったこと」「100年以上も保存できる方法を知れたこと」「手近な材料で標本作成ができること」「100年残るということ. 専門家になるために大切だということ.」「植物標本の意義がよくわかりました.」「おもしろい名前の植物を見られてとてもよかったです.」「植物が標本にすると100年ももつ事にびっくりした.」「標本にする植物を取っていた時」「しよくぶつ」

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「楽しかった」「めずらしい植物があったら標本にしてみんなにみせてあげたいです」「わかりやすく教えていただいて面白かったです」「何も準備せずに参加してごめんなさい!」「楽しかったです. 家の近くでもやってみようと思います」「とても楽しく勉強になりました. 植物に興味がわきました.」「いろいろおしえてくださりありがとうございました.」「いろんな植物を見れてうれしかったです.」「日ごろ生活している場所にたくさんの種類の植物が生息している事におどろいた.」「またずっと残しておきたい.」



新聞を破ることから開始。

※今回の観察会での植物採集は許可を得て行いました。

観 察 会 報 告

●カワシンジュガイの観察会

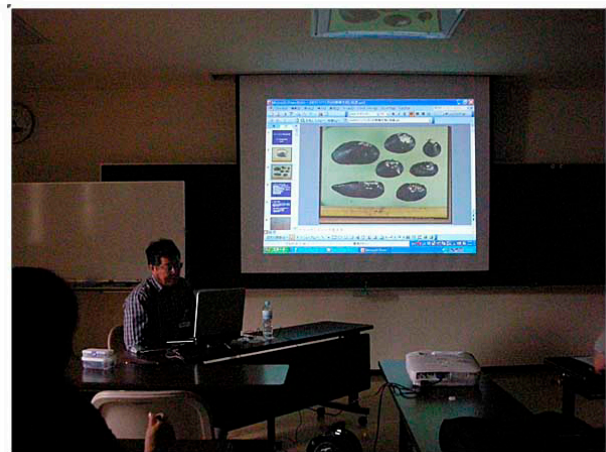
開催日時:2010年8月1日(日)9:30

講師:内藤順一

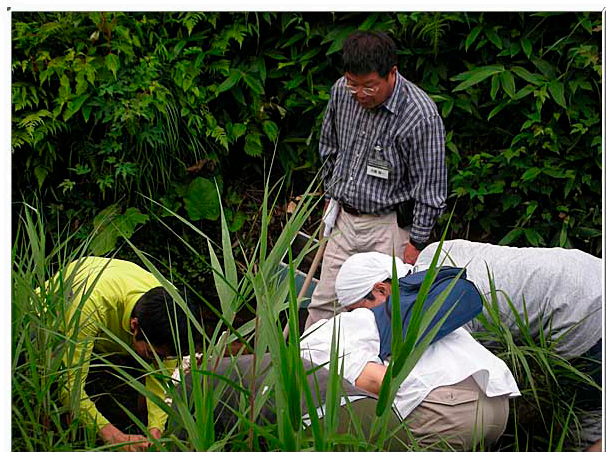
フィールドに出る前に、まず芸北文化ホールで「カワシンジュガイの繁殖生態と保護」と題して、資料・パソコンを使つての講義がありました。カワシンジュガイの分布域や、氷河期の生き残りで絶滅危惧種であること、北広島町の天然記念物であることの説明がありました。また、北広島町(旧芸北町)での発見と同定依頼の際の話や、保護・繁殖依頼により研究を続けられた経緯、ほ場整備後の河川環境指導など、写真を見ながら興味深い話をたくさんいただきました。発見当時から芸北ですとカワシンジュガイに関わつて来たということで近藤純史理事長も参加し、昔はこどもの頃から「立ちっ貝」といって川でたくさん見ていた話や、戦時中の食糧難の時代には、おいしくなかったけど食用にした話も聞きました。中国地方での分布・発見の経緯や現状、日本全国での調査研究・参考見学の話もおもしろく聞かせていただきました。実際に繁殖生態の解明や写真説明は個体数が少ない中で、長年の地道な研究で大変な御苦労があつたのだろう事が想像されました。カワシンジュガイとアブラボテは「相利共生」と考えられていたが、「片利共生」であつたこと、アマゴのエラに4月から2ヶ月寄生してから川底での生活に移行すること、生息域の河川環境やアマゴの生息域、アマゴ解禁の影響などいろいろ考えさせられることの多い話でした。講義質問の終了後、現地へ移動して実際にカワシンジュガイとご対面です。川の水が「冷たい」と実感しながら、流れのある中央ではなく川の端の草の根元の方に意外と簡単にカワシンジュガイを見つけることができ、「ここにも」、「ここにも」とみなさん大喜びです。周辺を泳いでいるアブラボテの雄の婚姻色を確認したり、カワムツの雄の婚姻色の赤色を観察しました。「久しぶりに見た」とサワガニを捕まえる人、箱眼鏡で水中をのぞきっぱなしの人、石に張り付いているプラナリアを観察する人と、みなさん講義・現地観察とも十分楽しまれたのではないのでしょうか。(やなぎざきのみこ)



芸北文化ホールにて、講義の始まり。



「立ちっ貝」と呼ばれるいろいろな淡水二枚貝の紹介。



「ここらを探してみてください」と言われ懸命に探す参加者。



「いた、いた」とそっと観察。



カワシンジュガイが生息する 河川環境。



アブラボテの雄の婚姻色。



観察会終了後、内藤先生から補足説明があった。



きたひろネットによる水中撮影。

【みなさんの印象に残った物】

「本物のカワシンジュガイを見られたこと。」
「実際に川の中に生息しているカワシンジュガイを観察できたこと。」
「カワシンジュガイが意外に大きかった。」
「意外にすぐカワシンジュガイが見れたこと」

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「環境とは何か。他者に説明する上で参考になりました。」
「このような機会がなければ見ることができないので貴重な体験になりました。」
「生息できる川の環境が非常に限られた範囲になっている水温、底の状態、共生する魚の種類」
「気軽な観察会で面白かった」

観 察 会 報 告

●千町原の草刈り 夏

開催日時:2010年8月7日(土)8:00

今年で4回目となった、“千町原 夏の草刈り”が行われました。早朝にもかかわらず30名の方が集まってくださいました。山麓庵で受付をすませ、川内さんや前さんのお話を聞き、句碑近くの現地へ移動します。白川学芸員より作業内容や注意点を聞き、いざ作業開始です。今回は三ヶ所に分かれ、オオハンゴンソウの除去、ヨシの刈り取り、木の伐採をしました。オオハンゴウソウの除去は、初めての試みでトラクターに機械をつけたもので刈り取りを行いました。八幡の高木さんが提案・実行をしてくださいました。おかげで短時間で広範囲の刈り取りができました。ヨシの刈り取りは、精鋭草刈り隊2名が手早く動き、午前中の前半で大方の刈り取りが終了しました。その他の参加者で、木の伐採を中心に、草刈り、草集めを行いました。以前から木の侵入と成長が気になっていた場所で、今回はこの場所を草原にもどすための作業を行いました。作業に慣れている参加者が多く、どんどんと作業が進みました。休憩時には作業の途中で見つけた鳥の巣やクモの巣がエイドに持ち込まれ、参加者のみなさんから楽しい話を聞くことができました。また草刈り隊の中では機械談議も行われていたようです。お楽しみのおやつは、毎年恒例のスイカはもちろん、冷え冷えの八幡産の完熟トマトとキュウリが大人気でした。高木さん、美味しい提案をありがとうございました。一方、こどもの参加者のためのキッズプログラムも行われ、草原を歩き、キッズたちは楽しく満足気な表情をしていました。

とても暑い日が続いた中での開催だったので、天候やみなさんの体調が気になっていましたが、ケガや事故もなく無事草刈りは終了しました。仕上げに出された八幡の手作り甘酒が、疲れた体にはぴったりの甘みでした。山麓庵でのお弁当タイムでは、涼をとり、仲間たちと充実感を味わえるぜいたくな時間でした。

毎年継続して作業を行い、草原を保全していくことはたくさんの方の協力なしでは行えません。お仕事や用事で参加できなかった方もいることでしょう。みなさんの自然への想い、草原

への関心などの大きな気持ちを感じながら、今回も草刈りが行えたことに感謝します。物品を貸し出してくださったカキツバタの里作り実行委員会、八幡小学校にはお礼申し上げます。(このやよい)

※有光真教さん、越岡真喜子さん、佐久間智子さんより写真提供していただきました。



早朝、山麓庵に集合。



きれいなお花畑に見えるが、実は外来種のオオハンゴンソウ。高木さんのアイデアでトラクターを使用。短時間で広範囲を刈り取れる。



今回草を刈るメインの場所.



休憩時間はお楽しみのスイカ！暑い中、冷たいスイカは嬉しい。



太い木はチェーンソーで切る。



キッズもお手伝い。楽しそうに草集め♪



若手コンビ、がんばっています！



恒例の記念写真。暑い中、お楽しみさまでした！

観 察 会 報 告

●可愛川の水生物観察会

開催日時：2010年8月8日(土) 13:30

講師：内藤順一

夏休み中の観察会とあって、参加者30人と大人数での開催となりました。まずは千代田公民館で講義からスタートです。今回の講師、内藤先生より“オオサンショウウオについて”という資料をいただき、プロジェクターで映し出される映像を見ながら、日本にはどんな両生類がいるのか、中国地方に生息するサンショウウオの環境、オオサンショウウオの生態などを先生の経験を交えてお話いただきました。オオサンショウウオがどのようなものを食べているかという調査の結果を写真で見せていただきましたが、アユやウグイなどの魚類はもちろんのこと、ガムシヤツチガエル、スジエビやアオダイショウ、カワガラスの羽、丸ごと一株の白菜まで出てきたと聞き、オオサンショウウオの貪欲性が大変よく分かりました。

1時間ほどの講義を終え、現地の可愛川の上官井堰(じょうかんいぜき)へ移動しました。天気が良く、川の水も気持ちがいいので参加者はずぶずぶと川へ入ります。水生物の観察会ということで、子ども達は魚を捕まえ「これは何の魚？」と先生に質問を重ねていました。一方大人の参加者は両川岸のヨシの茂みをのぞき込み、オオサンショウウオを探します。しばらくすると見つかったようで、調査のために次々と浅瀬へ運ばれて来ました。大きいのも小さいのもいます。内藤先生がマーカーを使い、個体ごとのチェックを行います。その結果、今回見つけた13匹のうち、7匹は新しく見つかった個体ということがわかりました。オオサンショウウオをよく見ると、前足の指の数は4本で、後ろ足は5本です。指の形も水中で立ってられるように少し曲がり、支えられる形になっていることを新たに知りました。こうやってオオサンショウウオを詳しく観察できることは、オオサンショウウオが生息できる今の川のおかげです。とても貴重な経験をしたことを嬉しく思い、夏の思い出がまた増えた観察会となりました。(このやよい)



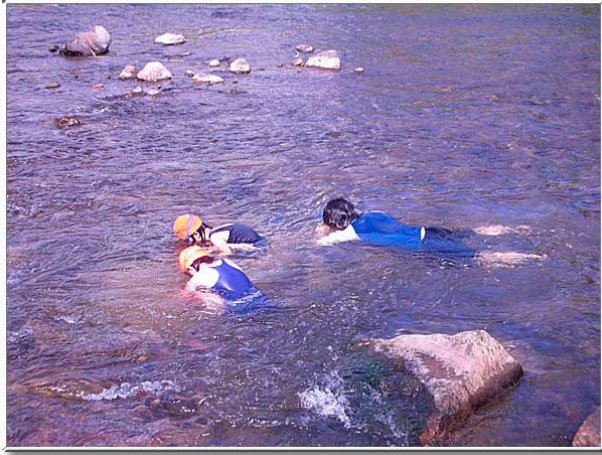
内藤先生による講義の様子。



晴れていて気持ちのいい観察会日和。



オオサンショウウオと自分の手を比べると・・・「指の数がおんなじだぁ」



もぐって魚を探すのが楽しい！



調査後、オオサンショウウオをもとにいた場所に連れて行く。



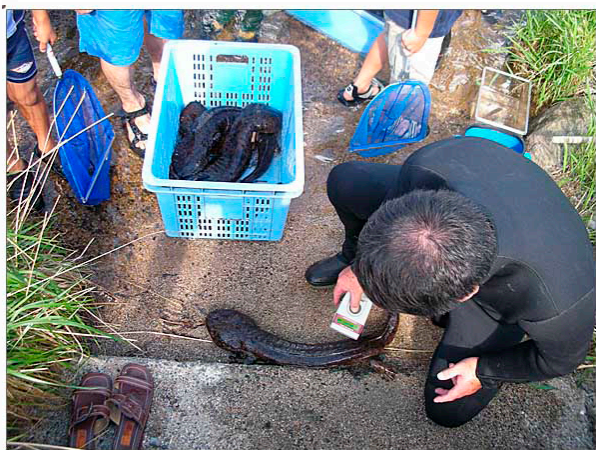
ユーモラスな顔つきのヨシノボリ。

【みなさんの印象に残った物】

「魚やオオサンショウウオが見れたこと」「オオサンショウウオの数の多さ (4)」「サンショウウオをつかまえた」「オオサンショウウオをはじめ見ました」「沢山のオオサンショウウオに出会えた」「オオサンショウウオが大きかった」「オオサンショウウオの手がかわいい」「すごい物を見たとかンゲキです」「3億3千万年前の生物を50万年位人類が同居している地球のフシギ」「1つの穴にたくさんおったのを見たこと」

【参加したみなさんの感想 (抜粋)】

「とても楽しかったです (2)」「サンショウウオうじゃうじゃ」「子供達が大変楽しそうで良かったです」「コンクリートに囲まれた川のごんなに多くの天然記念物があることにおどろきました」「目がかわいい」「童心にかえって楽しめました」「環境を考えるきっかけになりました」「野生のオオサンショウウオいるものだなあと」「ナマズを逃がしてくやしい。また参加したいです。普段は見えないけれど川の中には本当にたくさんの生物がいて、楽しかったです」「1メートル位のやつとかくどうしたこと」



マーカーを使い、個体のチェックをする内藤先生。

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳

作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

● 霧ヶ谷の観察会 秋のいきもの観察会

開催日時：2010年9月12日(土) 9:30

集合場所：高原の自然館

講師：岩見潤治・和田秀次

準備：基本セット

定員数：30名

参加費：一般=300円 / 賛助会員=100円

正会員・中学生以下=無料

夏に続き、霧ヶ谷湿原のいきもの観察会です。秋の気配に包まれた湿原ではどんな花や昆虫を見ることができるのでしょうか？遊歩道を歩きながら、ゆっくりじっくりと観察しましょう。



● 霧ヶ谷湿原の植生調査 秋

開催日時：2010年9月26日(土) 13:30

(開催時間が変更になりました。ご注意ください)

集合場所：高原の自然館

準備：基本セット

定員数：30名

参加費：無料

こちらにも夏に引き続き、霧ヶ谷湿原の植生調査を行います。モニタリングを続けている場所で、植物の細かなデータを班にわかれてとります。継続することによって、湿原化していく姿が見えてくる重要な調査です。調査の楽しさがわかる機会です。初めての方も気軽にご参加ください。



今年の夏も「あっ！」という間に過ぎました。そんな中、ずっと気になっていた自然館の自由展示スペースの展示をすることができました。テーマは「生物多様性を考えよう」とし、簡単な説明をしています。「生物多様性」はよく聞く用語ですが、実際身近でどんなことが起きているのか、ということに改めて考えるいい機会になりました。ご来館の際にご覧下さいね。(この)

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしています)

高原の自然館 (こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1

tel. & fax : 0826-36-2008

<http://shizenkan.info/>

staff@shizenkan.info